

歴史的円安の今後の行方

チーフ・FXコンサルタント
兼 マネックス・ユニバーシティ FX学長

2022.10.2

吉田 恒

FX PLUS（店頭外国為替証拠金取引）に関する重要事項

<リスク>

FX PLUSでは、取引対象である通貨の価格の変動により元本損失が生じることがあります。また、取引金額が預託すべき証拠金の額に比して大きいため（具体的な倍率は当社ウェブサイトをよくご確認ください）、取引対象である通貨の価格の変動により、その損失の額が証拠金の額を上回る（元本超過損）ことがあります。さらに、取引対象である通貨の金利の変動により、スワップポイントが受取りから支払いに転じることがあります。FX PLUSは、店頭取引であるため、当社・カバー先の信用状況の悪化等により元本損失が生じることがあります。FX PLUSでは、損失が一定比率以上になった場合に自動的に反対売買により決済されるロスカットルールが設けられていますが、相場の急激な変動により、元本超過損が生じることがあります。加えて、相場の急激な変動により、意図した取引ができない可能性があります。

<手数料等>

FX PLUSでは、取引手数料はかかりません。当社は、通貨ペアごとにオファー価格（ASK）とビッド価格（BID）を同時に提示します。オファー価格とビッド価格には差額（スプレッド）があり、オファー価格はビッド価格よりも高くなっています。流動性の低下、相場の急激な変動により、スプレッドの幅は拡大することがあります。

<証拠金>

FX PLUSでは、取引通貨の為替レートに応じた取引額に対して一定の証拠金率以上で当社が定める金額の証拠金（必要証拠金）が必要となります。一定の証拠金率とは以下のとおりです。ただし、相場の急激な変動等の事由が発生した場合には当社判断により変更することがあります。

（個人口座）

原則4%（一部の通貨ペアでは8%、詳細は当社ウェブサイトをご確認ください）

（法人口座）

金融商品取引業等に関する内閣府令第117条第31項第1号の定める定量的計算モデルにより金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの為替リスク想定比率です。ただし、金融先物取引業協会の算出した為替リスク想定比率が、当社が通貨ペアごとに定める最低証拠金率（原則1%、一部の通貨ペアでは8%、詳細は当社ウェブサイトをご確認ください）を下回る場合には、当社が通貨ペアごとに定める最低証拠金率を優先させることとします。

<その他>

お取引の際は、当社ウェブサイトに掲載の「契約締結前交付書面」「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」を必ずお読みください。

セミナーに関するご留意事項

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。
マネックス証券株式会社および説明者は、セミナーおよび関連資料等の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、保証するものではありません。情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時または提供時現在のものであり、今後予告なしに変更・削除されることがございます。当社および説明者はセミナーおよび関連資料等の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。なお、セミナーおよび関連資料等は当社および情報提供元の事前の書面による了解なしに複製・配布することはできません。記載内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本暗号資産取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

【米ドル／円と米2年債利回り (2021年1月～)】



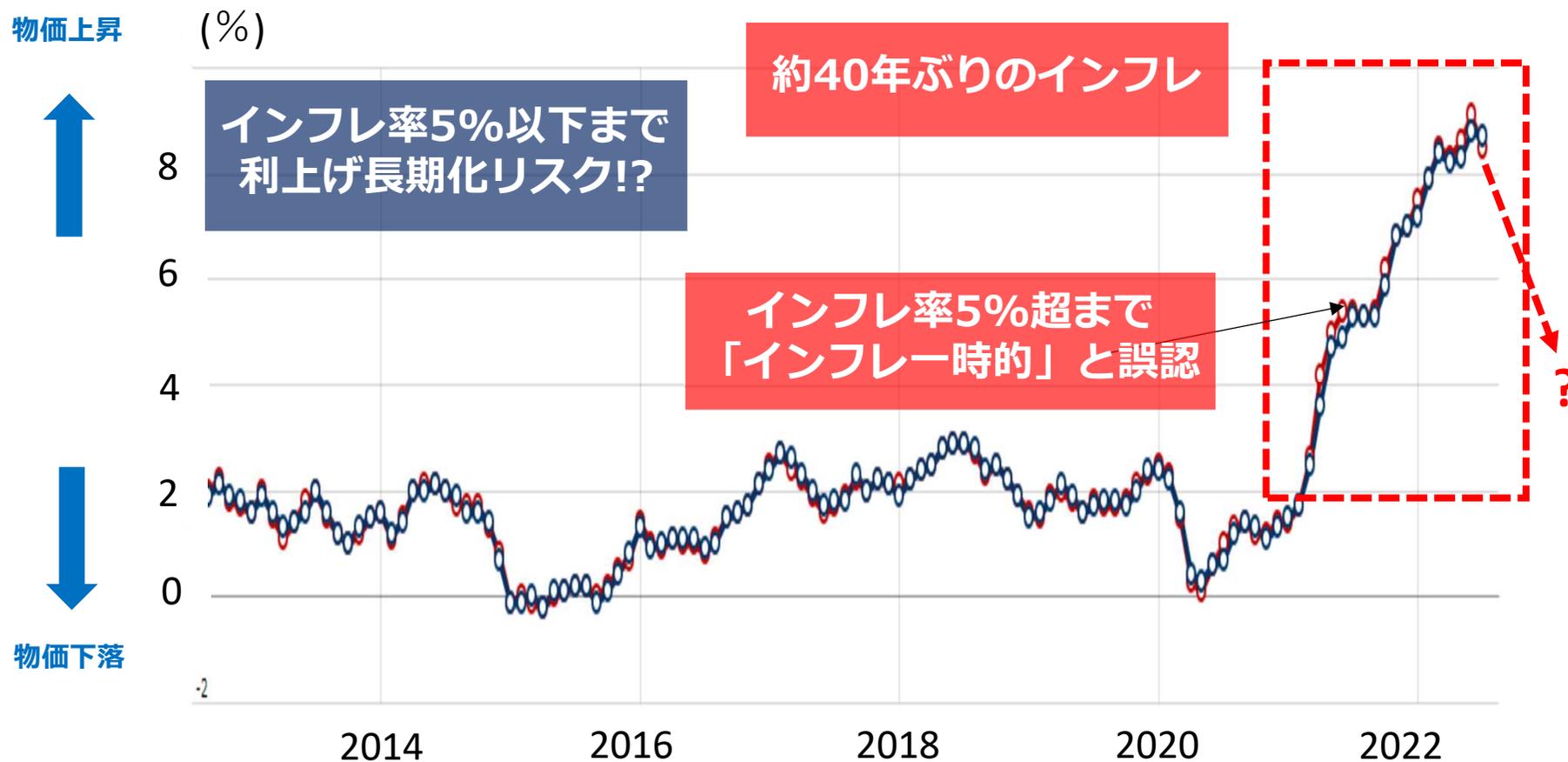
(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【ボルカーFRB議長時代のインフレ退治】

		40年前の インフレ退治は？
79/8	ボルカー氏、FRB議長に就任	
79/10	インフレ対策を発表	
80/1	第1回目のリセッションに突入(~80/7)	
80/3	インフレ・ピークアウト	
	→ 利上げ終了	14%台→10%割れ インフレ是正に一年以上
80/10	→ 利上げ再開	
81/5	インフレ率2ケタ割れ	2度のリセッションに突入
	利上げ終了	
81/7	2回目のリセッションに突入(~82/11)	

(出所:各種資料を基にマネックス証券が作成)

【過去10年の米CPI前年比上昇率の推移 (2012年8月～)】



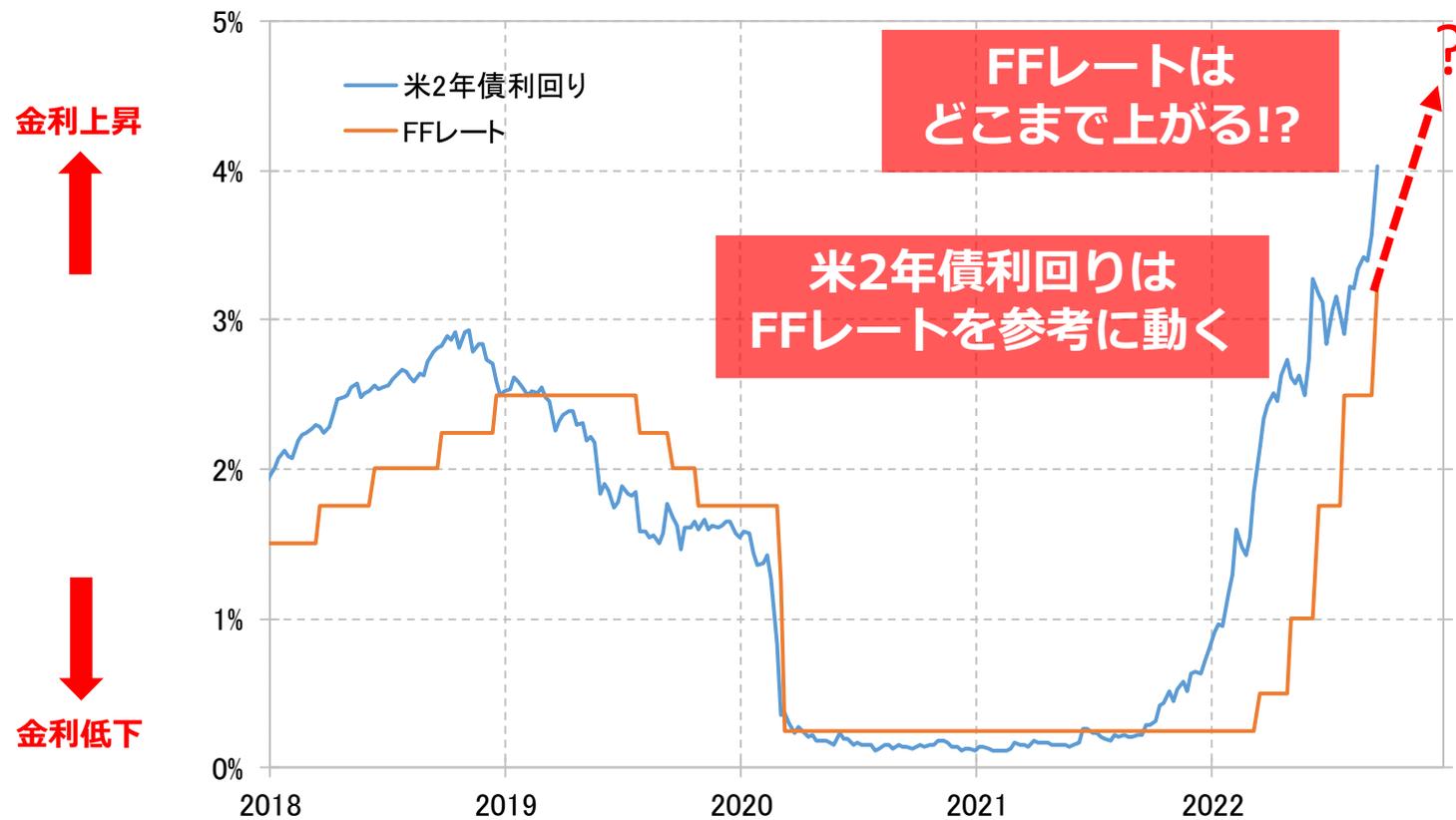
(出所: マネックス証券「経済指標カレンダー」)

【米ドル/円と米2年債利回り (2022年3月～)】



(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【FFレート上限と米2年債利回り (2018年～)】



(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

FFレートはどこまで上がるか？

- ・ 6月FOMCのFFレート見通し

2022年末=3.4% 2023年末=3.8%

→9月FOMCのFFレート見通し

2022年末=4.4% 2023年末=4.6%

* 利上げ見通しが大幅な上方修正!!

=米2年債利回り上昇見通し3.5→4.5%!?

【米ドル／円と米2年債利回り (2022年3月～)】



(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【米ドル／円の5年MAかい離率(1980年～)】



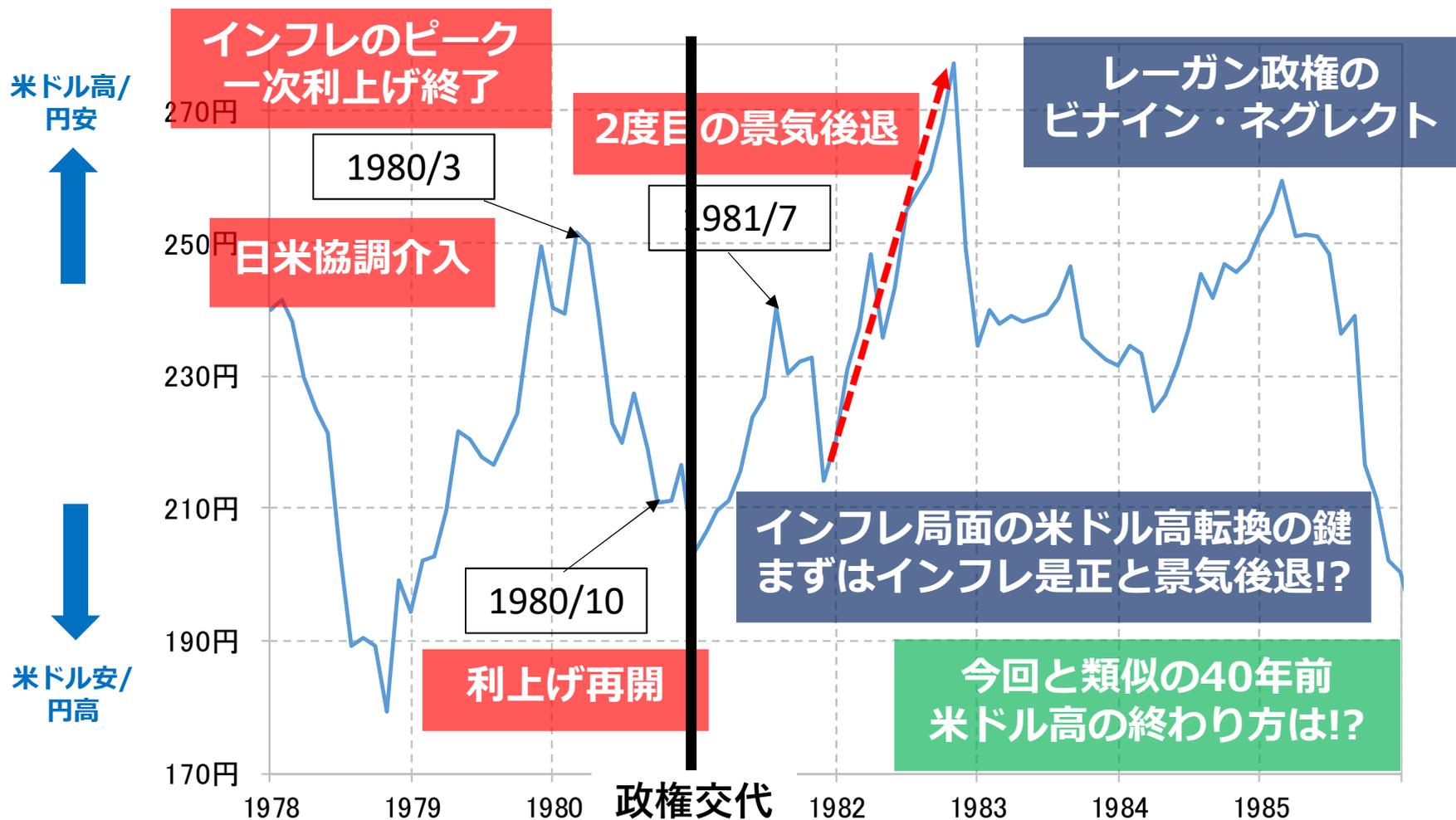
(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【米ドル／円の5年MAかい離率(1990年～)】



(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【米ドル／円の推移 (1978～1985年)】



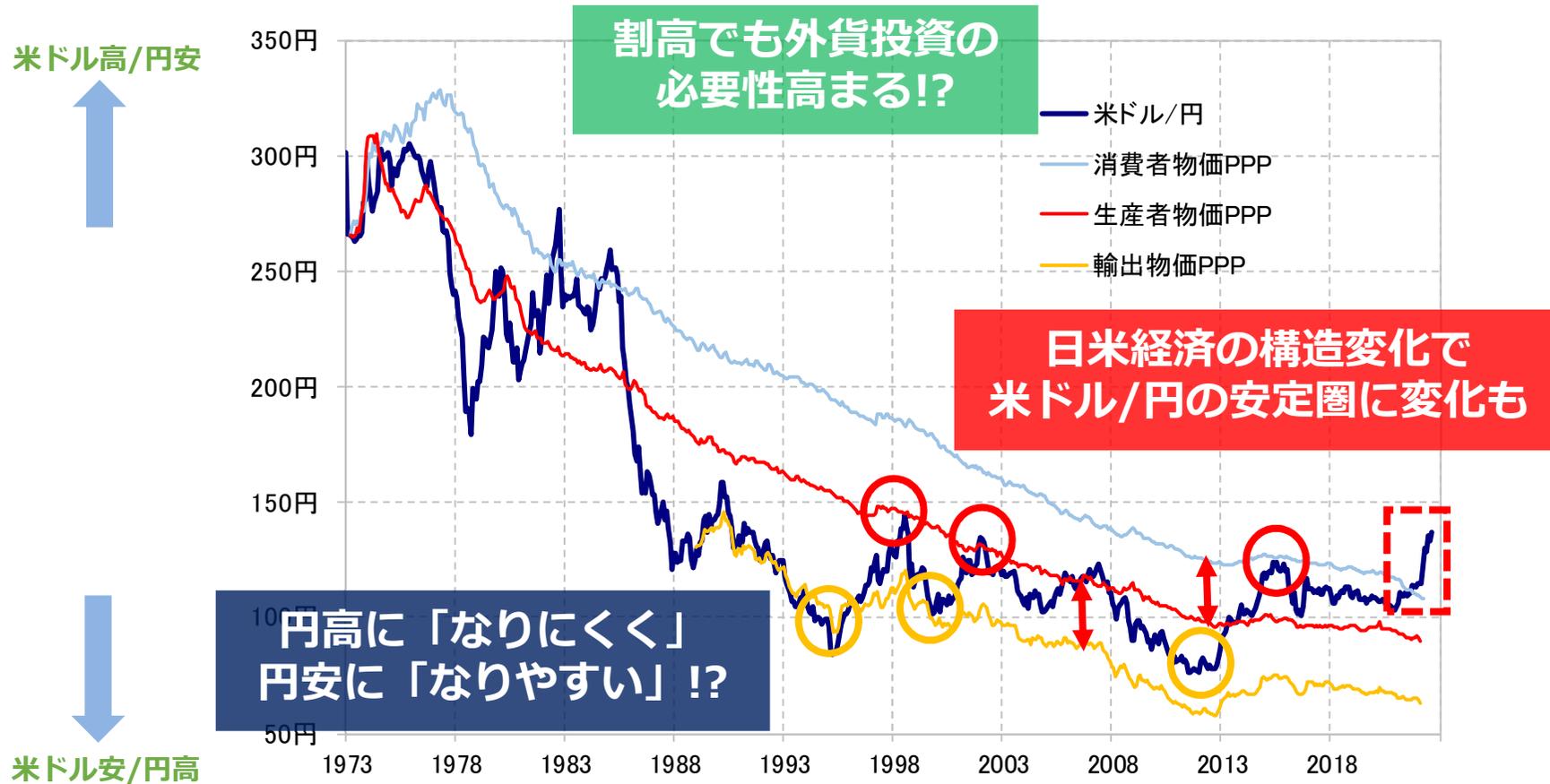
(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【米ドル／円の5年MAかい離率(1980年～)】



(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

【米ドル/円と日米の購買力平価(PPP)(1973年～)】



(出所:リフィニティブ社データよりマネックス証券が作成)

割高な米ドル買い戦略の3つの鍵

- ・ 割安な通貨の下落は限定的、割高な通貨の下落は「相当に大きい」可能性

→ 割高な通貨の買いは、損失限定化が不可欠

- ・ 損失限定化その1=投資額の抑制
- ・ 損失限定化その2=ストップロス
- ・ 損失限定化その3=小まめな利益確定